

# 国土交通省直轄工事における総合評価方式の実施状況 (平成21年度年次報告(速報版))について

国土交通省国土技術政策総合研究所総合技術政策研究センター  
建設マネジメント技術研究室 主任研究官 塚原隆夫  
研究官 多田 寛

## 1. はじめに

国土交通省では、国土交通省直轄事業における公共事業の品質のさらなる確保・向上を図るため、平成21年度に設置した「総合評価方式の活用・改善等による品質確保に関する懇談会」(座長：小澤一雅東京大学大学院工学研究科教授)において、総合評価方式の活用・改善や多様な入札・契約制度の導入等、入札・契約に関する諸課題への対応方針について検討を行っており、これら検討に資するため国土交通省における総合評価方式の現況を取りまとめた「国土交通省直轄工事における総合評価方式の実施状況(年次報告)」を作成しております。

本稿では、平成21年度の年次報告についてその速報版を作成しましたので、その概要を報告いたします。

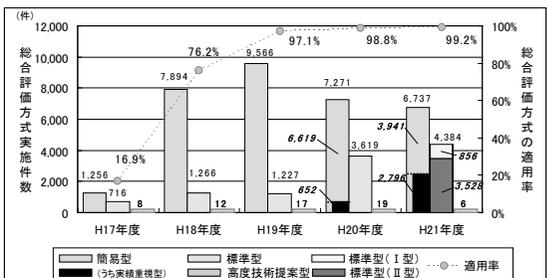
## 2. 総合評価方式の普及・拡大の状況

年度別及びタイプ別の総合評価方式の実施件数と実施金額について、それぞれ図-1及び図-2に示します。

平成21年度における総合評価方式の適用率は件数ベースで99.2%となり、ほぼ100%の適用状況となっています。タイプ別では、最も多いのは簡易型の6,737件(全体に占める割合60.5%)で、最も少ないのは高度技術提案型の6件(同0.05%)です。また、早期発注対策として実施した

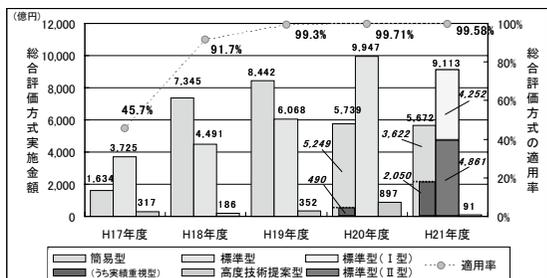
実績重視型(簡易型の内数、以下同じ)は2,796件で、全総合評価件数の25.1%を占めました。

また、金額ベースでの平成21年度における総合評価方式の適用率は99.6%となり、ほぼ100%の適用状況となっています。タイプ別では、最も多いのは標準型の9,113億円(全体に占める割合61.3%)で、最も少ないのは高度技術提案型の91億円(同



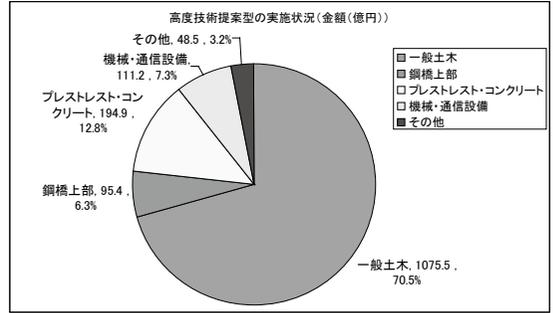
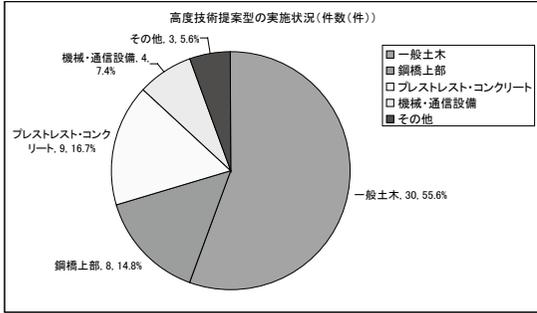
注1) 8地方整備局における実施件数。  
注2) 適用率は随意契約を除く全発注工事件数に対する総合評価方式実施件数の割合。

図-1 総合評価方式の年度別・タイプ別の実施状況(件数)



注1) 8地方整備局における当初実施金額。  
注2) 適用率は随意契約を除く全発注工事金額に対する総合評価方式実施金額の割合。

図-2 総合評価方式の年度別・タイプ別の実施状況(金額)



注1) 8地方整備局を対象。  
注2) 全工種を対象。

図-3 高度技術提案型の総合評価方式における実施状況(件数・金額)の内訳

0.6%)です。また、早期発注対策として実施した実績重視型は2,050億円で、全総合評価件数の13.8%を占めました。

### 3. 高度技術提案型の実施状況

総合評価方式の各タイプのうち高度技術提案型について、工種別の実施件数と実施金額を図-3に示します。

高度技術提案型は、平成18～21年度において、一般土木、鋼橋上部、プレストレストコンクリートの各工種において実施する 경우가多く、件数ベースで47件(全体に

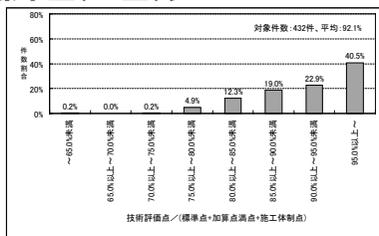
占める割合87.0%)、金額ベースで1,366億円(同89.5%)です。

平成21年度において、高度技術提案型の実施件数が減少した主な理由は、早期発注による手続き期間の短縮、大規模事業の見直しによる発注方針の変更等が考えられます。

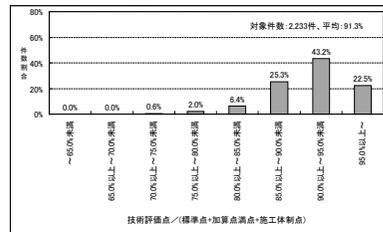
### 4. 技術評価の実施状況

総合評価方式の各タイプにおける技術評価点(標準点+加算点+施工体制点)の得点状況について図-4に示します。

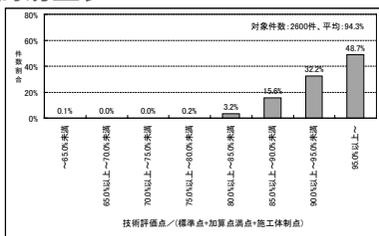
#### 〔標準型(I型)〕



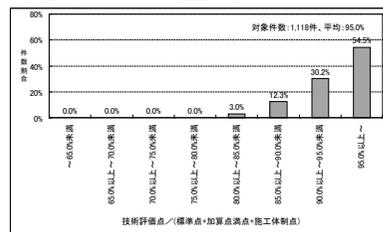
#### 〔標準型(II型)〕



#### 〔簡易型〕



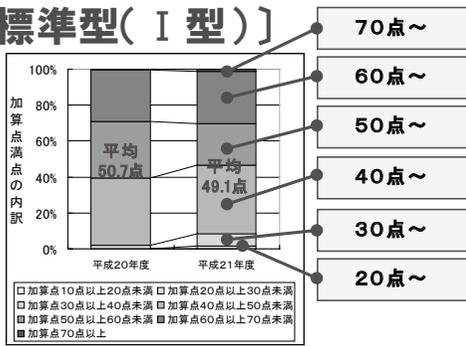
#### 〔(うち実績重視型)〕



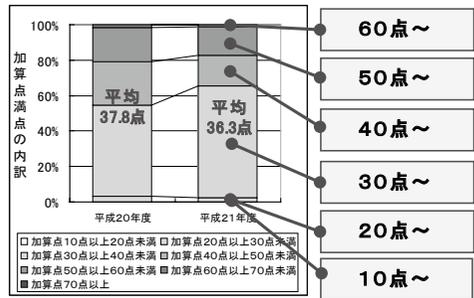
注1) 主要4工種(一般土木、AS舗装、PC、鋼橋上部工)に該当する工事を対象。

図-4 各タイプにおける技術評価点の分布

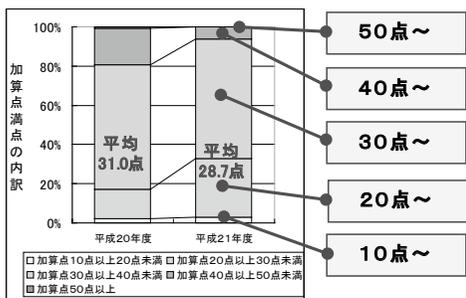
〔標準型(Ⅰ型)〕



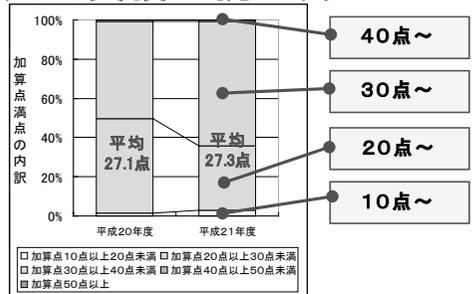
〔標準型(Ⅱ型)〕



〔簡易型〕



〔(うち実績重視型)〕



注1) 主要4工種(一般土木、AS舗装、PC、鋼橋上部工)に該当する工事を対象。  
 注2) 予定価格内1者の工事を除く。

図-5 各タイプにおける加算点満点の内訳

満点(標準点+加算点満点+施工体制点)に占める技術評価点の割合は、標準型(Ⅰ)、標準型(Ⅱ)、簡易型、実績重視型の何れも90%以上となる件数が過半数を超えており、それぞれ63.4%、65.7%、80.9%、84.7%を占めています。

5. 落札者の状況

(1) タイプ別の加算点の設定状況

総合評価方式の各タイプにおける加算点(満点)の設定状況について図-5に示します。

加算点の平均は、標準型(Ⅰ)49.1点、標準型(Ⅱ)36.3点、簡易型28.7点、実績重視型27.3点となっており、技術評価を重視する度合いが大きいほど高い配点となっています。

加算点数別では、標準型(Ⅰ)は加算点を50点以上とした件数が53.4%を占める一方、その他の型は、全て30~40点とした件数が最も多く、標準型(Ⅱ)63.0%、簡易型60.9%、実績重視型63.7%を占めています。

(2) 入札価格と技術評価点得点との関係

「入札価格(最低価格、最低価格以外)」と「技術評価点の得点(最高得点、最高得点以外)」との関係で落札者の割合を年度ごとに整理した結果を図-6に示します。

最高得点者(最低価格者以外)が落札した割合は、標準型(Ⅰ)56.5%、標準型(Ⅱ)31.8%、簡易型26.3%(実績重視型は28.0%)となっており、技術評価を重視する度合いが大きいほど高い割合となっています。

## 6. 施工体制確認型の実施状況

国土交通省直轄工事の各工種における工事成績評定点と落札率について、施工体制確認型を導入した場合と導入しない場合で整理した結果を図-7に示します。

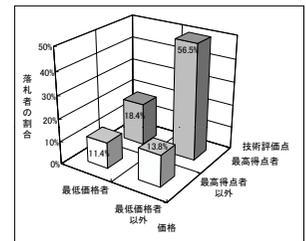
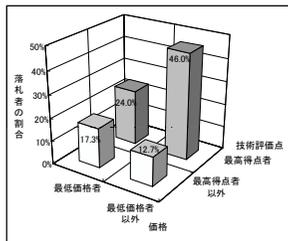
施工体制確認型を導入した場合の平均工事成績評定点は75.4点で、導入しない場合と比較して1.7点高くなっています。

工種別に、施工体制確認型を導入した場合と導入しない場合における工事成績評定

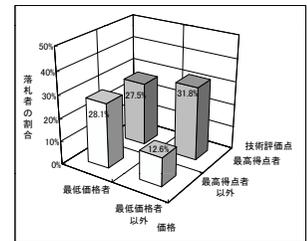
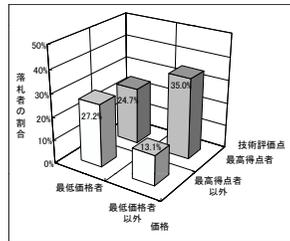
点を比較すると、何れの工種においても、導入した場合の方が高い値を示しており、特に、建築（2.3点差）、一般土木（2.2点差）、アスファルト舗装（1.6点差）の差が大きくなっています。

また、落札率も、何れの工種においても、導入した場合の方が高い値を示しており、特に、電気設備（11ポイント）、造園（9ポイント）、建築（9ポイント）の差が大きくなっています。

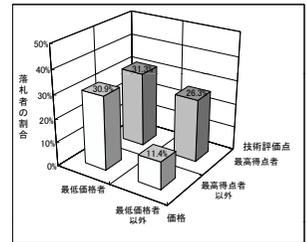
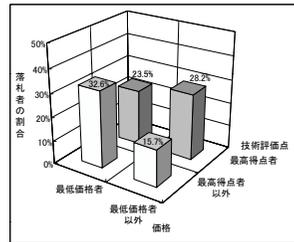
### 〔標準型(Ⅰ型)〕



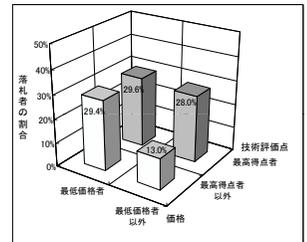
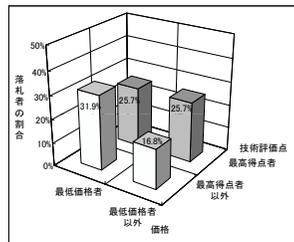
### 〔標準型(Ⅱ型)〕



### 〔簡易型〕



### 〔うち実績重視型)〕



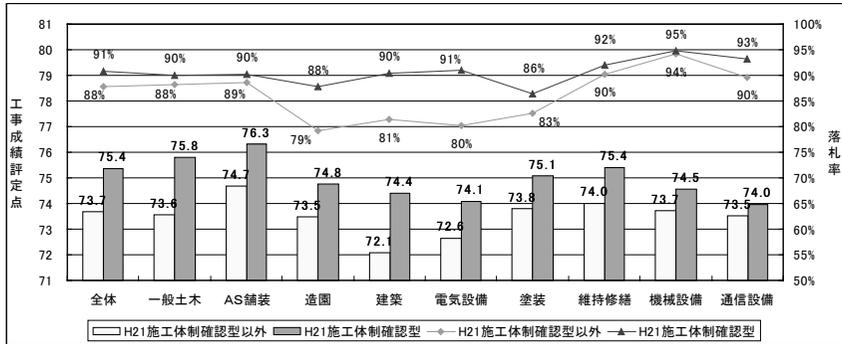
平成20年度

平成21年度

注1) 主要4工種(一般土木、AS舗装、PC、鋼橋上部工)に該当する工事を対象。

注2) 予定価格内1者の工事を除く。

図-6 各タイプにおける落札者の状況



注1) 工種別は、平成21年度の実施件数が100件以上の工種を対象。

図-7 各工種における工事成績評定点と落札率の状況

## 7. おわりに

今回は平成21年度の年次報告の速報版について述べたものであり、今後、データの追加等を行い充実を図る予定です。また、過年度作成の「国土交通省直轄工事における総合評価方式の実施状況（年次報告）」のほか、「総合評価方式の活用・改善

等による品質確保に関する懇談会」におけるこれまでの検討内容・検討成果は国土技術政策総合研究所のホームページ（URL：<http://www.nilim.go.jp/lab/peg/index.htm>）に掲載されていますのでご参照ください。

## 土木施工管理技士が知っておくべき 公共工事の検査 CPDS指定技術講習用テキスト

出来映えなどの写真を豊富に使い技士だけでなく発注者やコンサルタントの方にも大変参考になります。

1. 総論
2. 施工
3. 検査
4. 参考資料

一般価格：2,500円 会員価格：2,100円 送料込み



図書の購入は、ホームページ[www.ejcm.or.jp/](http://www.ejcm.or.jp/)の図書オンライン購入からできます。